

12月10日(日)まで開催

アートドキュメント2017

河口龍夫 — 眼差し
の彼方

Tatsuo Kawaguchi — Beyond viewing



左<<森のために>>2017
巣箱、硫化カドミウム、蜜蝋 (26点)
右<<関係一時の睡蓮>>2017
容器、種子(蓮)、鉛、蜜蝋、硫化カドミウム
※創作の森上空約150mよりドローンで撮影



様々な眼差しで森を見つめよう

池に浮かべた黄色い円盤<<関係一時の睡蓮>>や黄色い巣箱の作品<<森のために>>などをドローンで空撮した映像をギャラリーでご覧いただけるのも本展の見どころの一つです。まるで鳥の目線のような高さから作品を見ながら、普段とは違う創作の森の姿をぜひご覧ください。

作品解説 & レクチャー

芸術の秋、作品解説やレクチャーで現代美術に親しもう！河口氏の作品鑑賞のヒントなどを担当学芸員がお話します。

◆作品解説
日時：12月10日(日)14:00～15:00
会場：アートコアミュージアム-1ほか
定員：なし※要展覧会観覧券

◆レクチャー『河口龍夫から見る日本の現代美術』
日時：11月23日(木・祝)14:00～15:30
会場：アートコア 研修会議室
定員：20人(全席自由)※要展覧会観覧券



自作について語る河口龍夫氏

鼎談開催

10月22日(日)、アートコアミュージアム-2では河口龍夫氏、土田ヒロミ(当館館長)、土岡秀一(当館顧問)による鼎談が行われ、写真家、美術評論家の視点から、河口作品について語られました。11月19日(日)には現代美術作家・長谷光城氏との対談を開催します。ぜひご来場ください。

電動ろくろ体験

手びねり中心の体験に電動ろくろが加わりました。講師がマンツーマンで優しくサポートします。気軽にチャレンジしてみてください！

開催日：2017年12月17日(日)、2018年1月21日(日)、1月28日(日)、2月18日(日)
開催時間：午前の部 10:00～、午後の部 13:30～
所要時間：1人につき約20分間
料金：3,100円/1人1作品
対象年齢：6才～(小学生以下は保護者同伴/未就学児は要問い合わせ)
定員：1～6人
●ご予約・お問い合わせ
創作工房 (TEL.73-7802) ※前日の17:00(休館日を挟む場合は、休館日前日)までにお電話にてご予約ください。



ろくろ体験の様子

- 月曜休館(祝日の場合開館、翌平日休館)
- (公財)金津創作の森財団 事務局 TEL.73-7800 <http://sosaku.jp/>
- アンビション(レストラン&森の結婚式) 問合せ アンビション TEL. 73-4141



友情がいつまでも続くことを願って

◆10月17日(火) 藤野巖九郎記念館前



中国の文豪魯迅の孫にあたる、周令飛さんを会長とする魯迅文化基金会の会員28人が、あわら市を訪れました。一行は、日本留学中の魯迅の師だった、あわら市出身の藤野巖九郎の旧宅を移築した「藤野巖九郎記念館」に足を運び、来市を記念して植樹を行いました。植樹したのはライラックの木。ライラックは魯迅が北京で初めて建てた家の中庭に植えた木で、現在でも2本残っていることから選ばれました。周さんたちとともに植樹を行った橋本市長は「ライラックの花言葉は『友情』。魯迅先生と藤野先生の師弟愛から始まった友好関係が、次世代に引き継がれていくことを期待したい。」と述べていました。

刈安山の水車小屋が
リニューアルしました！



刈安山の中腹で登山者の憩いの場となっている水車小屋が、今秋きれいに生まれ変わりました。痛みの激しかった屋根や外壁などを、角谷木材建設株式会社が地域貢献活動の一環として修復されたものです。

刈安山に入山した際には、水車小屋に立ち寄り、ゆっくりと休憩してみてください。

問合せ 観光商工課 ☎ 73-8029



まちかど graffiti では、広報係が取材した“あわらの話題”をお届けします！

目指せ、優勝！

◆10月1日(日) トリムパークかなづグラウンド



「第14回市民体育祭」を開催しました。昨年に続き、天気に恵まれたこの日、みんなでジャンプや綱引き、玉入れ、人生リレーといった競技に、小さな子どもからお年寄りまで、たくさんの市民が爽やかな汗を流しました。グラウンドや各ブロックのテントから大きな声援が飛び、参加選手はチーム一丸となって、優勝目指して頑張っていました。

領土を綱引きで勝ち取れ！

◆10月15日(日) 越前加賀県境の館前



領土を巡って争う「第3回鹿島の森伝説 越前・加賀県境綱引き」が開催されました。昨年は見事に雪辱を果たし、1勝1敗の五分ということもあり、両陣営ともかなりの気合の入りよう。まずは、昨年と同様「民の綱引き」で両市民のチームが競い合いました。その後、伝説にちなみ、越前の男神に扮したあわら市長と加賀の女神に扮した加賀市長がそれぞれ率いる選抜チームによる「神の綱引き」を実施。越前国は、民の綱引きでの負けをものともせず奮闘するも、あと一歩及ばず惜しくも破れ、加賀に領土を1メートル取られてしまいました。橋本市長は、互いの健闘をたたえつつも、来年のリベンジを固く誓っていました。